



第39回 JA千葉県大会

食と農と組合員のくらしを支え、
地域社会にJAの価値を提供
～協同組合は変革し、時代とともに進化しつづける～

 JAグループ千葉



— 第39回 JA千葉県大会の考え方 —

I JAグループの存在意義およびめざす姿

JAグループに求められる期待や果たすべき役割が変化する中、今後も「食と農を基軸とした地域に根ざした協同組合」としての役割を発揮しつづけるためには、「JAとはどのような姿をめざす組織なのか」を、改めて確認することとしました。

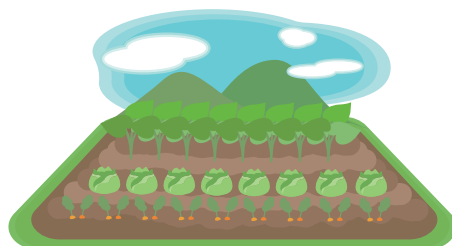
JAグループの存在意義

協同活動と総合事業で食と農を支え、
豊かなくらしと活力ある地域社会を実現する

また、地域にとって無くてはならない組織であり続けるため、中長期的に、以下の3つの姿（めざす姿2030）をめざします。

JAグループのめざす姿2030

- ① 持続可能な農業の実現
- ② 豊かでくらしやすい地域共生社会の実現
- ③ 協同組合としての役割発揮



II 第39回 JA千葉県大会議案の考え方

第39回 JA千葉県大会においては、JAグループ千葉が将来にわたり必要とされるJAでありつづけるため「JAグループの存在意義」「JAグループのめざす姿」の実現に向けて、以下の3つを基本的考え方とした取り組みの柱を設定します。

その上で、JAグループ千葉の実態を踏まえ、具体的な取組事項を整理します。

- (1) 組合員・地域社会に提供する価値の最大化
- (2) 「活動と事業の好循環」による価値提供を支える組織基盤・経営基盤の強化
- (3) 農業やJAに係る理解の醸成

Ⅲ スローガンおよび取り組みの柱

「第39回 JA千葉県大会議案の考え方」の実践と実現に向けて、以下のスローガンに基づき、5つの項目を柱として取り組みます。

スローガン

「食と農と組合員のくらしを支え、地域社会にJAの価値を提供」
～協同組合は変革し、時代とともに進化しつづける～

取り組みの柱

1

食料安全保障
への貢献

2

豊かなくらし
・地域社会の
活性化

3

JAの
仲間づくり

4

健全・強固な
経営基盤の
確立

5

農業・
JAへの理解・
共感の醸成

○第39回 JA千葉県大会議案の全体概要

JA綱領

JAグループの
存在意義

協同活動と総合事業で食と農を支え、豊かなくらしと活力ある地域社会を実現する

めざす姿
(2030)

持続可能な農業の実現、豊かでくらしやすい地域共生社会の実現、協同組合としての役割発揮

JAグループが
提供する価値

食料・農業への貢献

- ・安全・安心な国産農畜産物の安定供給
- ・農業所得の増大の実現

組合員のくらし・地域社会への貢献

- ・組合員の豊かなくらしの実現
- ・地域社会の持続的発展の実現

第39回 JA千葉県大会議案

スローガン

「食と農と組合員のくらしを支え、地域社会にJAの価値を提供」
～協同組合は変革し、時代とともに進化しつづける～

提供する価値の
最大化の取組

1 食料安全保障への貢献

2 豊かなくらし・地域社会の活性化

価値提供を支える取組

3 JAの仲間づくり

4 健全・強固な経営基盤の確立

理解醸成の取組

5 農業・JAへの理解・共感の醸成

— 具体的取り組み事項 —

1 食料安全保障への貢献

1. 食料安全保障への貢献に向けた地域農業の実践

要 点

- 品目・地域実態を踏まえた生産振興と国内生産の増大による食料安全保障への貢献
- 組合員間、組合員と役員間の話し合いを通じ、次世代総点検運動を加味した地域農業振興計画等の策定・実践
- 適正な価格形成や経営安定対策の強化等に向け、農政運動を通じた政策の確立・国民理解の醸成
- 農業・農村における自然災害・鳥獣被害への対策と関係機関と連携した迅速な復旧・復興が行える体制の整備

2. 次世代の確保や環境と調和した持続可能な農業の実現

要 点

- 次世代組合員数目標の達成に向けた事業承継・相続支援と新規就農支援の強化
- 労働力支援・農福連携の取り組みや兼業・副業による農業従事者の取り組みの強化
- 安全・安心、環境に配慮した農業の推進を通じた持続可能な農業の実現

3. 農業所得の増大と国産農畜産物の安定供給

要 点

- 国産農畜産物の付加価値拡大、消費拡大、実需者・消費者への安定供給による農業所得の増大への貢献
- 「国消国産」の実践に向けた「地産地消」の推進や輸出拡大による販売力の強化
- 物流2024年問題を契機とした物流効率化および輸送手段の多様化を通じた生産現場のコスト負担の抑制
- 無駄のない施肥・農薬や国内資源の有効活用等環境への配慮と経済性を考慮した技術・資材の普及・推進を通じた生産トータルコストの低減

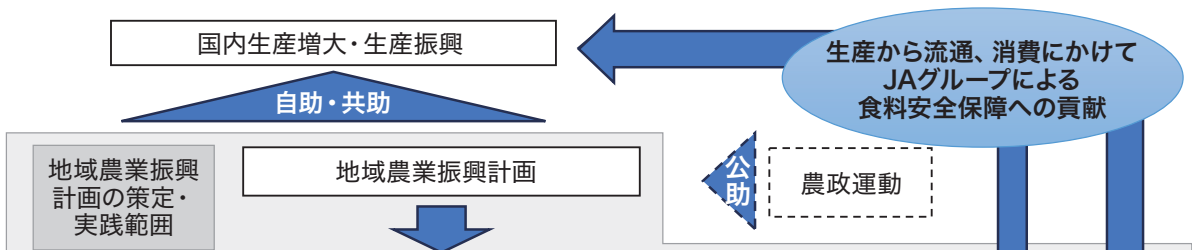
4. 農業の担い手のニーズへの対応強化に向けた営農経済事業体制の整備

要 点

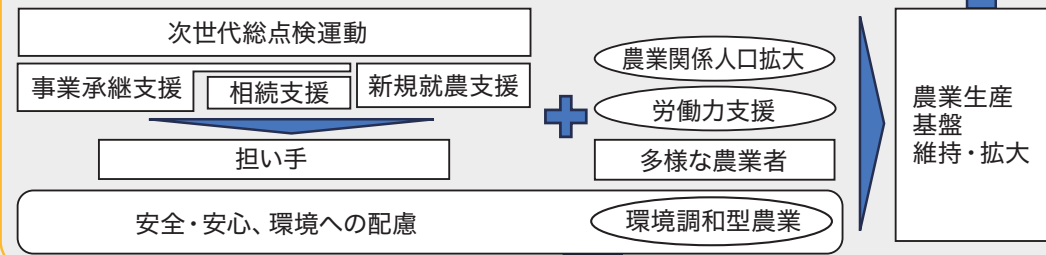
- JA営農経済事業の機能・体制強化とそれを支える営農指導員の専門性強化・人材育成
- デジタル技術の活用による営農指導の効率化・高度化とそれに向けた人材の育成
- 営農経済事業のみでなく、信用等も包含した事業間連携により総合事業力の発揮に向けた担い手コンサルティング機能の強化

【食料安全保障への貢献】

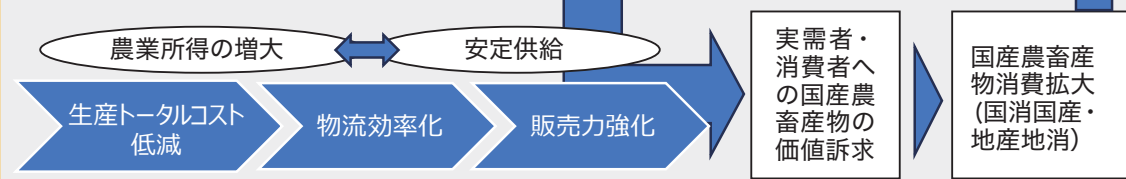
1. 食料安全保障への貢献に向けた地域農業の実践



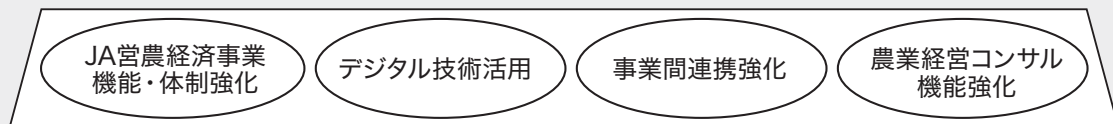
2. 次世代の確保や環境との調和を通じた持続可能な農業の実現



3. 農業所得の増大と国産農畜産物の安定供給



4. 農業の担い手ニーズへの対応強化に向けた営農経済事業体制の整備



【「国消国産」の目指す姿】

食料安全保障の確保や国産農畜産物の安定供給



2 豊かなくらし・地域社会の活性化

1. 活動・事業を通じた組合員の豊かなくらしの実現(活動と事業の好循環)

要 点

- 日常的な接点を通じた各種活動・事業の参加者に新たな活動・事業を提案する「活動と事業の好循環」の実践による組合員の豊かなくらしの実現
- 組合員ごとのニーズの把握・共有に向けた訪問活動や総合相談機能等の対面接点とSNSやアプリ等のデジタル技術を活用した非対面接点による組合員との日常的な接点づくり

2. 各種協同活動の実践による協同組合としての強みの発揮

要 点

- 食農教育を各種協同活動の重要取り組み事項として位置づけと全JAにおける取組計画の策定
- 学校教育と連携した食農教育を効果的かつ継続的に行うことによる農業の理解醸成と組合員・地域住民を対象とした啓発・教育活動への取り組み

3. 総合事業による組合員の豊かなくらしの実現

要 点

- JA・連合会による生活購買店舗・JAファーマーズマーケット・ガソリンスタンド・葬祭等の組合員に寄り添う拠点運営を通じた、地域における豊かな生活を支える取り組み
- JAバンク・JA共済による組合員・利用者本位の最適な組み合わせでの金融・保障サービスの提供を通じた、農業・くらし・地域を豊かにしていく取り組み
- 次世代とのつながりを守るため取り組む総合事業による相続相談対応の強化
- JA・厚生連による健診事業や健康増進活動等の厚生事業や地域のセーフティネットとしての機能発揮に向けた介護事業の取り組み

4. 活動・事業を通じた地域社会の活性化・地域共生社会の実現

要 点

- 農村地帯において特に生活インフラ機能としてニーズの高い、厚生・介護、生活・購買、信用・共済を中心とした総合事業サービスによる生活インフラ機能の発揮
- JAの施設・拠点を組合員との接点とした総合事業やくらしの活動等の各種活動の展開、行政や地域の課題解決に取り組む企業等との連携を通じた地域社会の活性化への貢献
- 都市農村交流による農業・農村への理解醸成や関係人口の創出に向けた取り組み、地域コミュニティの維持

【豊かなくらし・地域社会の活性化】

1. 活動・事業を通じた組合員の豊かなくらしの実現（活動と事業の好循環）

組合員のくらしを軸とした活動・事業



2. 各種協同活動の実践による協同組合としての強みの発揮

重点取組の設定と取組計画の策定

JAが主体の活動

全世代型食農教育
健康増進活動
金融教育、リスク啓発活動

好循環の実現に向けた各種活動の検討・見直し

協同活動と総合事業の好循環

3. 総合事業による組合員の豊かなくらしの実現

生活・購買	生活購買店舗・ファーマーズマーケット等
信用	総合事業性を活かした金融仲介機能
共済	組合員・利用者本位の保障提供
厚生・介護	健康増進・高齢者福祉
旅行	総合事業と連動した旅行・催し

組合員の豊かなくらしの実現

地域社会の持続的発展の実現

4. 活動・事業を通じた地域社会の活性化・地域共生社会の実現

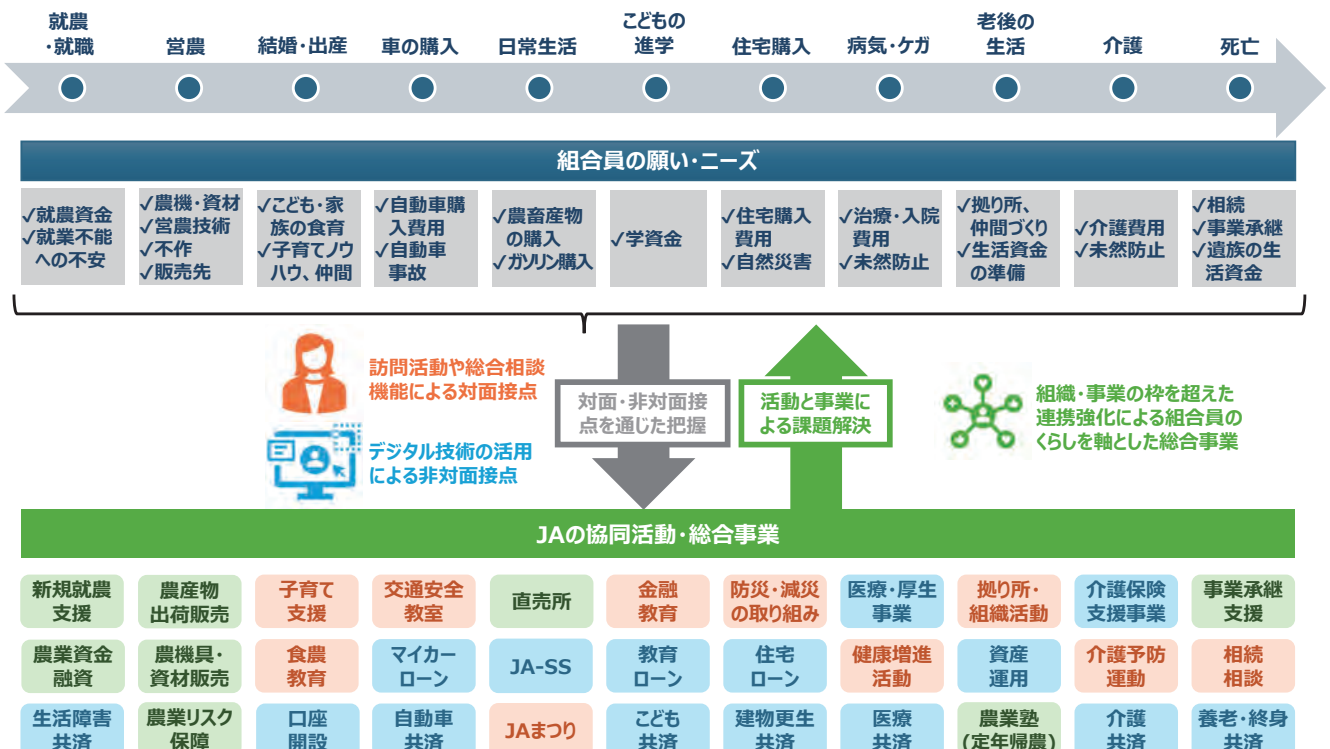
組織活動・地域貢献活動による地域社会・コミュニティの維持・活性化

拠り所の提供、見守り活動、助け合い活動、子育て支援、環境保全、都市農村交流

総合事業による地域の生活インフラ機能の発揮

生活・購買、厚生・介護、信用、共済

【組合員のくらしを軸とした事業・活動】



3 JAの仲間づくり

1. 組合員等と対話運動等を通じた関係強化

要 点

- 組合員との徹底した対話に基づく組織・事業運営に取り組むための担い手訪問や事業利用・活動参加等の機会を利用した対面・非対面での対話等による、「組合員との対話運動」の継続・強化
- 正組合員の減少や組合員の高齢化が進んでいる現状を踏まえた中での「組合員加入方針」の策定による組合員の拡大、組織基盤の取組強化

2. 価値観を共有する仲間づくり

要 点

- 「次世代総点検運動」と連動した次世代の正組合員の確保、都市農村交流等を接点とした農業や食への価値観を共有する「農業振興の応援団」としての准組合員の加入促進

3. 女性・青年をはじめとする多様な組合員等の参画促進

要 点

- 女性組織や青年組織など組合員組織の活動の活性化、仲間づくりの支援、青年組織のないJAでの青年組織の設置への取り組み
- 様々な組合員の声をJA運営に反映するため、女性・青年農業者の組合員加入や総代・理事等への参画についての目標・計画設定

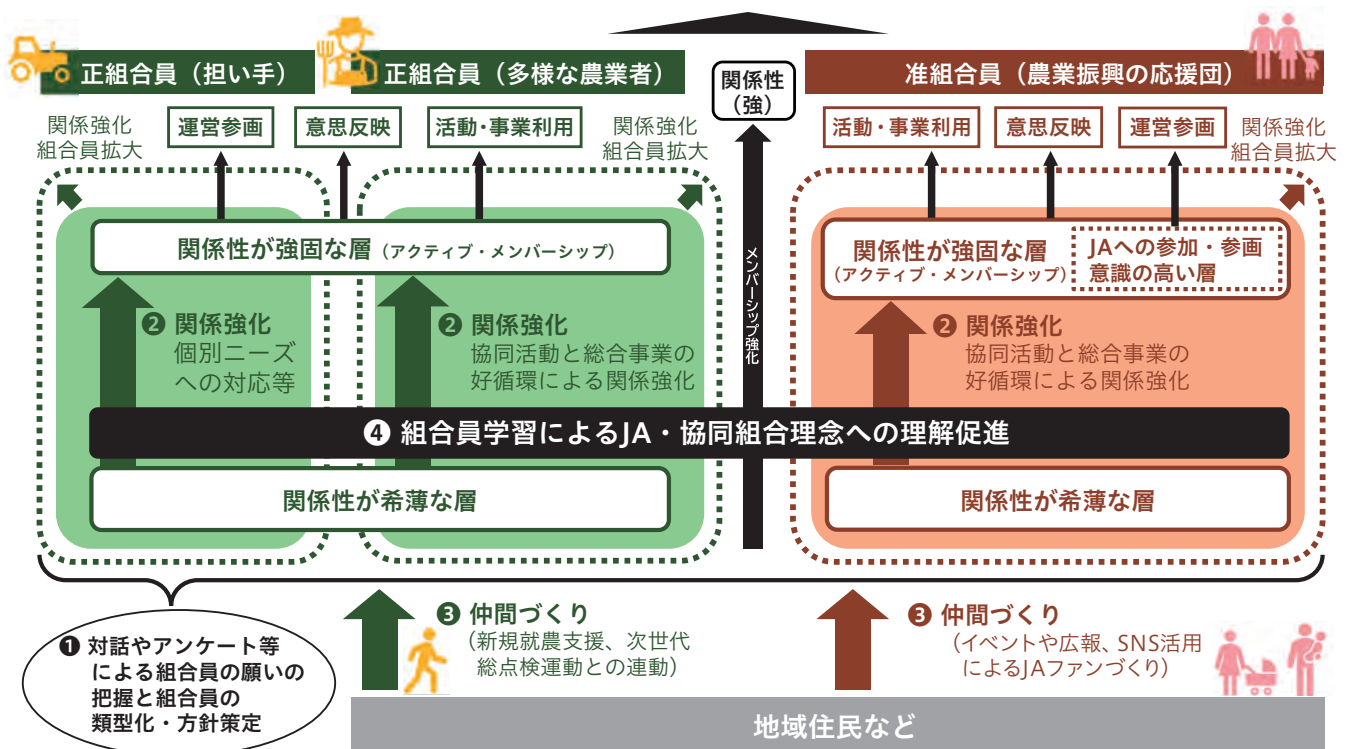
4. 組合員の学びの場の提供・リーダー育成

要 点

- 組織活動でのリーダーシップを図ることができる組合員を募り、協同組合を体系的に学ぶ機会としての「組合員大学」の設置・運営への取り組み
- 国際協同組合年(IYC2025)やICA声明(協同組合のアイデンティティに関する提言)について、協同組合に対する理解の促進と認知度を高める取り組み

【JAの仲間づくり全体像】

JAの仲間づくり（関係強化、組合員数の維持・拡大）



4 健全・強固な経営基盤の確立

1. 持続可能な経営基盤の確立・強化

要 点

- JAの将来像の実現に向けた持続可能かつ実効性のある経営計画の策定、PDCAサイクルの実践
- 組合員・利用者のニーズに基づくJA総合事業の強みの発揮、付加価値の創出
- デジタル技術を活用した業務の効率化と生産性の向上
- JAの最大限の機能発揮の実現に向けた構想区分ごとの地区別協議の実施、持続可能な経営基盤の確立

2. 組合員・利用者から信頼される組織・業務運営の実践

要 点

- 経営戦略の実現に向けた経営者のリーダーシップの発揮、経営の透明性を確保するための内部統制強化
- 不祥事未然防止に向けたJA版3線モデルの実効性向上

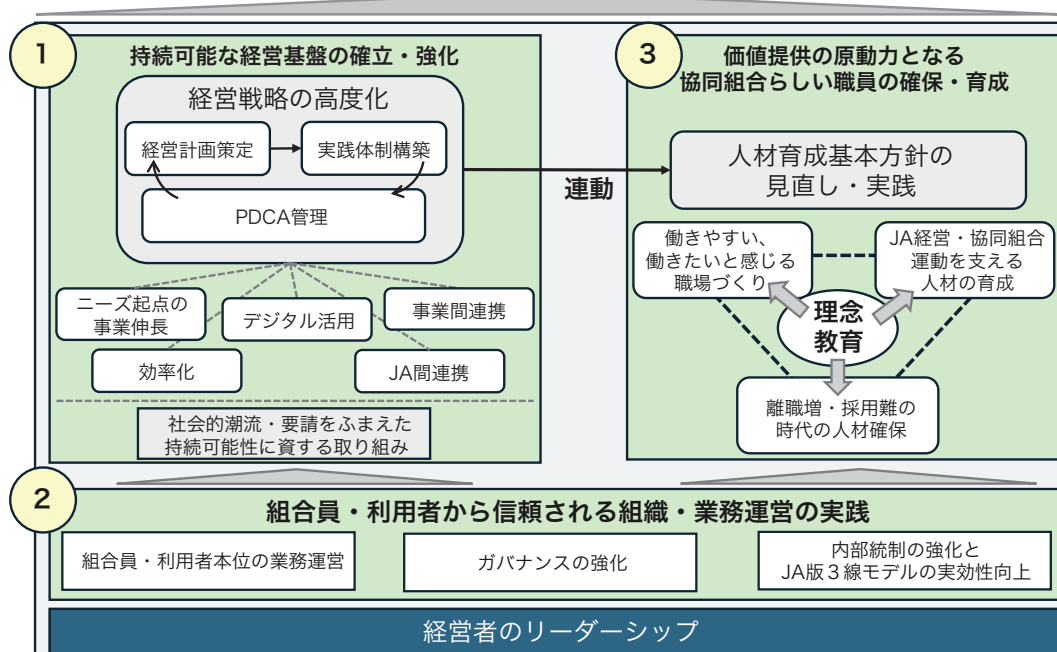
3. 価値提供の原動力となる協同組合らしい職員の確保・育成

要 点

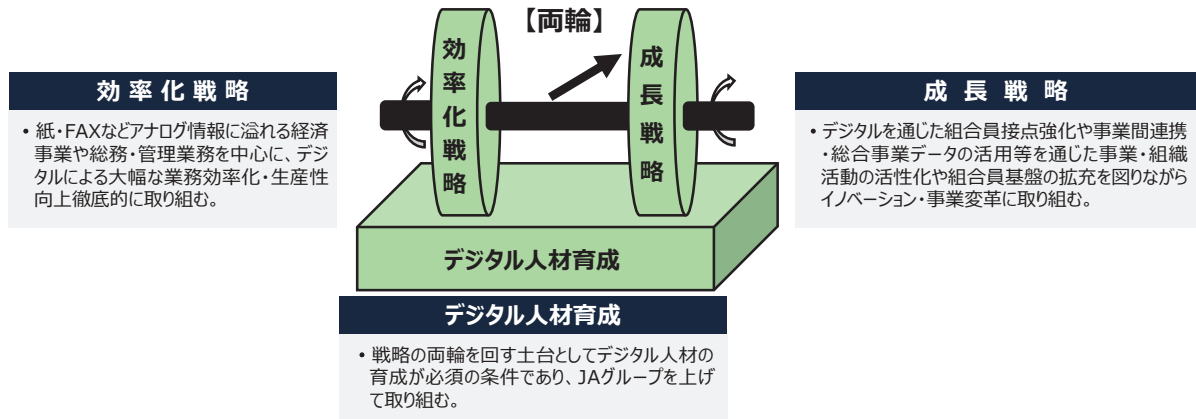
- 経営戦略に基づく人材育成基本方針の見直しと実践
- 経営戦略の実践をリードするJA経営人材の育成、働きやすい職場づくり

【健全・強固な経営基盤の確立全体像】

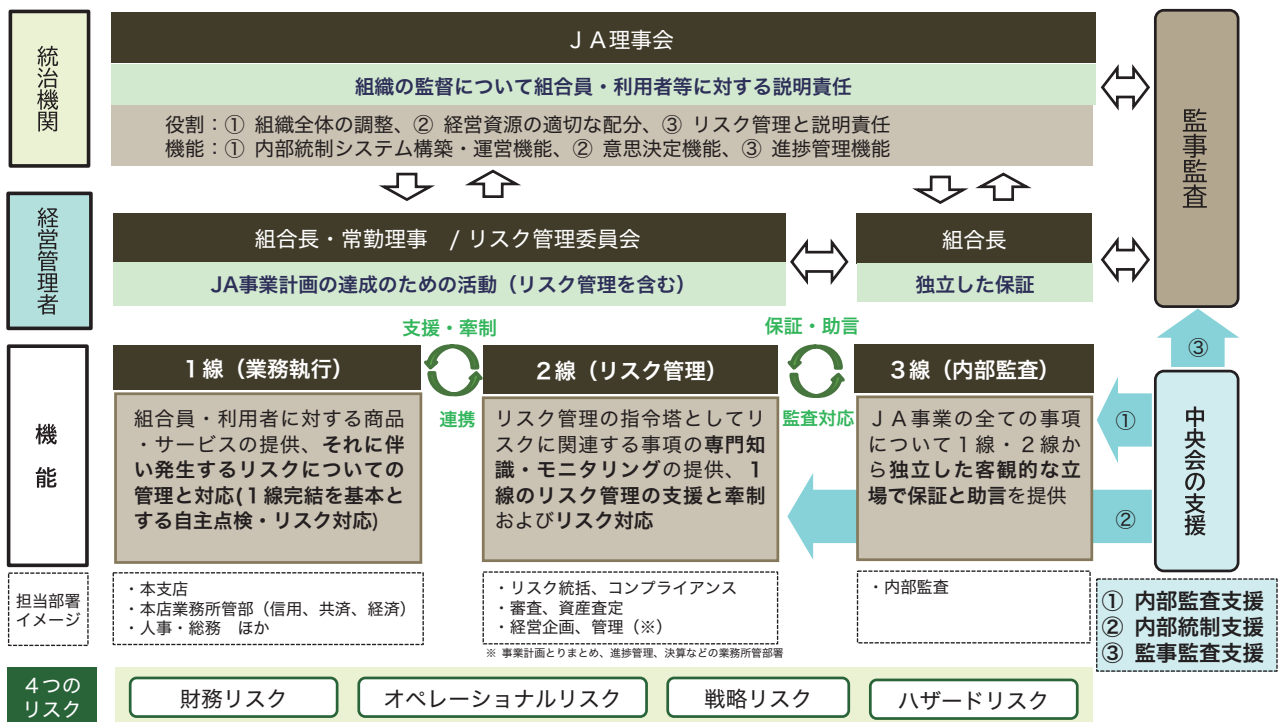
健全・強固な経営基盤の確立



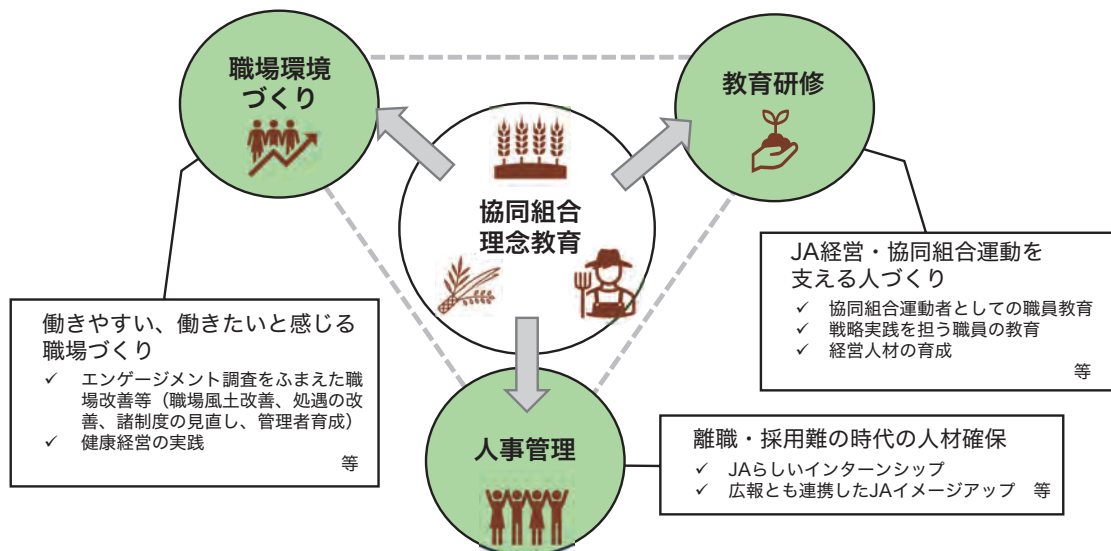
【デジタル活用による事業間連携イメージ】



【JA版3線モデル（概要）】



【人材育成の3要素】



5 農業・JAへの理解・共感の醸成

1. 情報発信による農業・JAグループに対する理解醸成

要 点

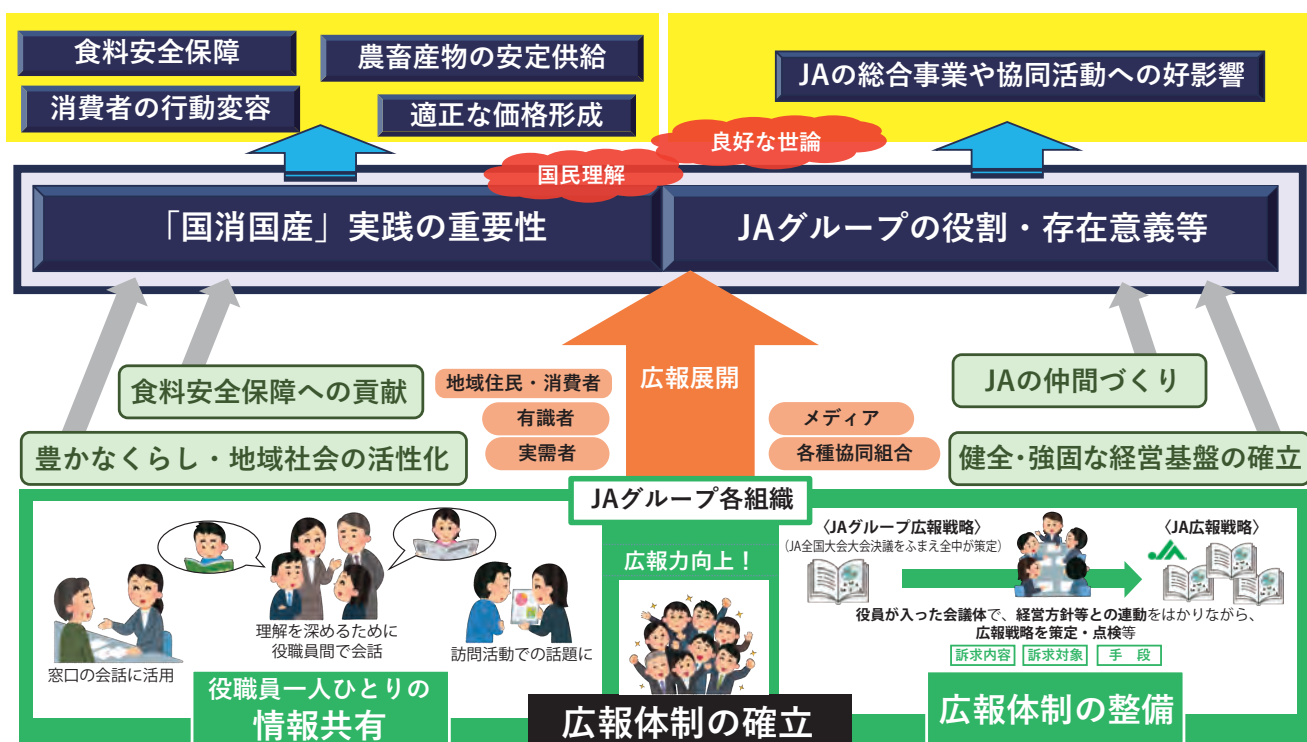
- JAグループ千葉による農業に対する県民理解と消費者の行動変容につながる広報展開
- 食料安全保障の確保や国産農畜産物の安定供給、国消国産を実践することの重要性の理解醸成
- 子育て層・若年層に向け、農業の価値と実情、食・農・地域を支えるJAグループの役割や存在意識について、グループ一体となった効果的な情報発信

2. 戦略的な情報発信に向けた広報体制の確立

要 点

- JAグループ千葉全役職員は、「広報」を経営機能の一部として捉え、広報の意識を認知し、体制の整備を実施
- 広報活動の実践に向け、実生活において接触する様々なメディア環境を的確に見極めた、「訴求内容」・「訴求対象」の設定と「広報手段」の設定
- JA・中央会・連合会による広報マインドの向上をめざした広報手段の活用促進

【農業・JAへの理解・共感の醸成全体像】



第39回 JA千葉県大会の全体像

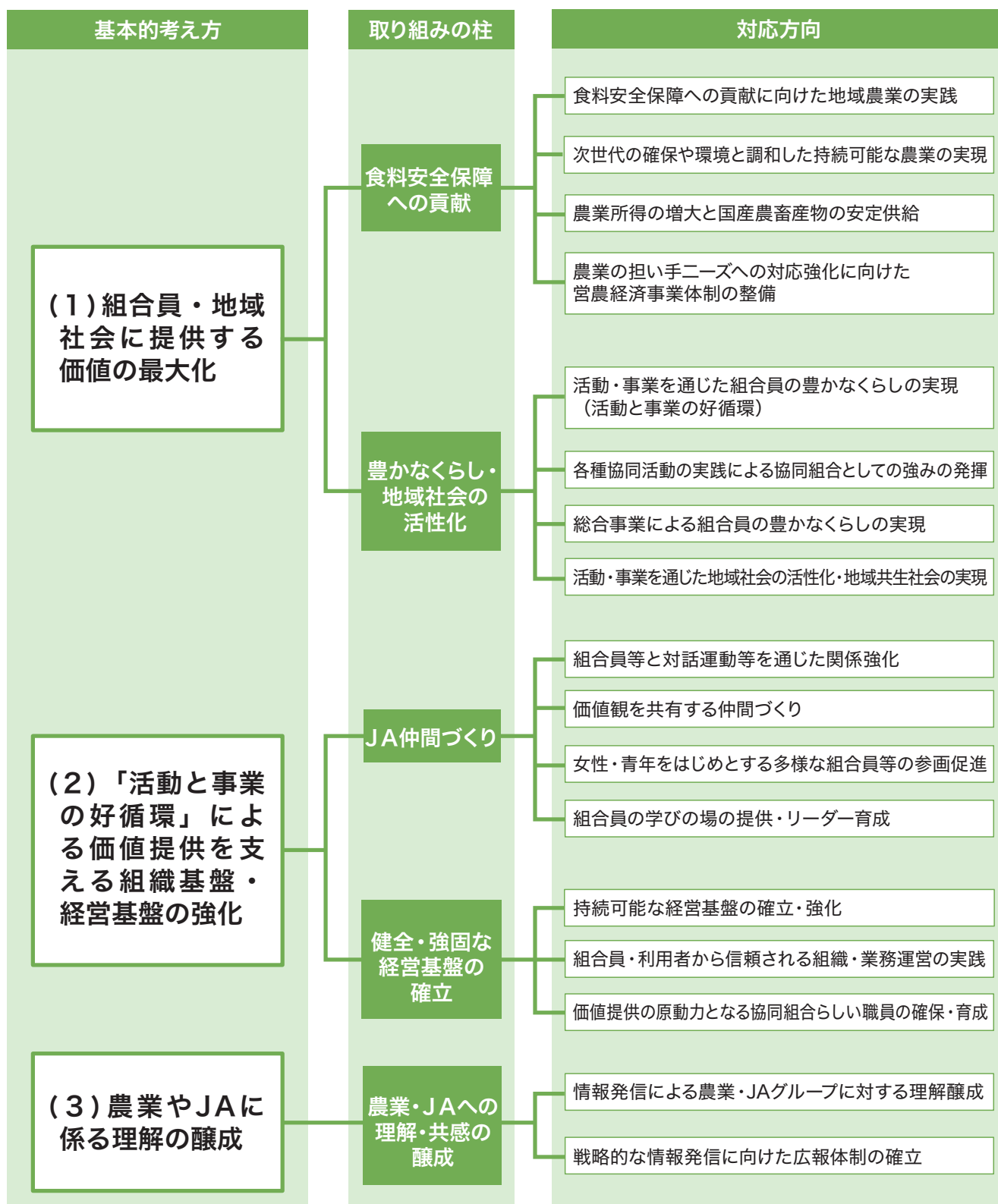
JAグループの存在意義およびめざす姿

■ JAグループの存在意義

協同活動と総合事業で食と農を支え、
豊かなくらしと活力ある地域社会を実現する

■ JAグループのめざす姿（2030）

- ① 持続可能な農業の実現
- ② 豊かでくらしやすい地域共生社会の実現
- ③ 協同組合としての役割発揮



JA綱領

— わたしたちJAのめざすもの —

わたしたちJAの組合員・役職員は、協同組合運動の基本的な定義・価値・原則（自主、自立、参加、民主的運営、公正、連帯等）に基づき行動します。

そして、地球的視野に立って環境変化を見通し、組織・事業・経営の革新をはかります。さらに、地域・全国・世界の協同組合の仲間と連携し、より民主的で公正な社会の実現に努めます。

このため、わたしたちは次のことを通じ、農業と地域社会に根ざした組織としての社会的役割を誠実に果たします。

わたしたちは、

- 1 地域の農業を振興し、わが国の食と緑と水を守ろう。
- 1 環境・文化・福祉への貢献を通じて、安心して暮らせる豊かな地域社会を築こう。
- 1 JAへの積極的な参加と連帯によって、協同の成果を実現しよう。
- 1 自主・自立と民主的運営の基本に立ち、JAを健全に経営し信頼を高めよう。
- 1 協同の理念を学び実践を通じて、共に生きがいを追求しよう。

協同組合原則

1. 定義

協同組合とは、人々が自主的に結びついた自律の団体です。人々が共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、経済的・社会的・文化的に共通して必要とするものや強い願いを充すことを目的にしています。

2. 価値

協同組合は、自助、自己責任、民主主義、平等、公正、連帯という価値観に基づいています。組合員は、創始者達の伝統を受け継いで、正直、公開、社会的責任、他社への配慮という倫理的な価値を信条としています。

3. 原則

協同組合は、その価値を実践していくうえで、以下の原則を指針としています。

〈第1原則〉自主的で開かれた組合員制

協同組合は、自主性に基づく組織です。その事業を利用することができ、また、組合員としての責任を引き受けようとする人には、男女の別や、社会的・人種的・政治的あるいは宗教の別を問わず、誰にでも開かれています。

〈第2原則〉組合員による民主的な管理

協同組合は、組合員が管理する民主的な組織です。その方針や意思は、組合員が積極的に参加して決定します。代表として選ばれ役員を務める男女は、組合員に対して責任を負います。単位協同組合では、組合員は平等の票決権（一人一票）を持ち、それ以外の段階の協同組合も、民主的な方法で管理されます。

〈第3原則〉組合財政への参加

組合員は、自分達の協同組合に公平に出資し、これを民主的に管理します。組合の資本の少なくとも一部は、通例、その組合の共同の財産です。加入条件として約束した出資金は、何がしかの利息を受け取るとしても、制限された利率によるのが通例です。

剰余は、以下のいずれか、あるいはすべての目的に充当します。

- ・できれば、準備金を積立てることにより、自分達の組合を一層発展させるため。
- ・なお、準備金の少なくとも一部は、分割できません。
- ・組合の利用高に比例して組合員に還元するため。
- ・組合員が承認するその他の活動の支援に充てるため。

〈第4原則〉自主・自立

協同組合は、組合員が管理する自律・自助の組織です。政府を含む外部の組織と取り決めを結び、あるいは組合の外部から資本を調達する場合、組合員による民主的な管理を確保し、また、組合の自主性を保つ条件で行います。

〈第5原則〉教育・広報・研修

協同組合は、組合員、選ばれた役員、管理職、従業員に対し、各々が自分達の組合の発展に効果的に寄与できるように教育・研修を実施します。協同組合は、一般の人々、一なかでも若者、オピニオンリーダーにむけて、協同の特質と利点について広報活動します。

〈第6原則〉協同組合間の協同

協同組合は、地域、全国、諸国間の、さらには国際的な仕組みを通じて協同することにより、自分の組合員に最も効果的に奉仕し、また、協同組合運動を強化します。

〈第7原則〉地域社会への係わり

協同組合は、組合員が承認する方針に沿って、地域社会の持続可能な発展に努めます。

